

gckanbun Package Documentation (Reworked)

Original ver. : Munehiro Yamamoto

Modified ver. : Kosei Kawaguchi a.k.a. KKT_EX

Version 2.2.0 (2025/12/26)

目次

1	概要	2
2	変更点	2
3	設置・依存性	2
3.1	読み込み	2
3.2	オプション	2
4	各種コマンド	3
4.1	概観	3
4.2	使用方法	3
4.2.1	\kaeriten、\返り	3
4.2.2	\furigana、\振り、\okurigana、\送り	4
5	局所縦書き	4
6	通常の漢文	5
7	漢詩	7
8	ライセンス	10
9	Version History	10
10	Source Code	10

1 概要

このリワークは、gckanbun パッケージを、日本における漢文組版においてより高い品質を担保できるように改変したものです。オリジナルの作者様である山本宗宏 (Munehiro Yamamoto) さんとの協議により、メンテナーを形式上私川口晃世 (KKTeX) が引き継ぐこととなりました。

gckanbun パッケージはそのルビや返り点の制御構造において非常に優れていたため、大枠はオリジナルのそれを踏襲し、必要最低限の拡張及び変更にとどめています。また、本パッケージに関する山本さんの記事として、

<https://qiita.com/munepi/items/5e6ac49fa5c025123305>

もぜひご参照ください。

2 変更点

私は本パッケージを作成するにあたり、既存の gckanbun パッケージを以下を満たすように改変しました。

- ① 再読文字に対応するコマンドの提供。
- ② 横書き環境でも正しく動くようにする。
- ③ 一レ点などの特別な返り点に対処するためのコマンドを提供する。
- ④ 行間にに対してルビの「大きさ」が反映されるように変更。(それに伴い、オリジナルで生じていた文字サイズ変更に伴うルビと本文の被りが生じる問題を解消。)
- ⑤ 筆者の作成した (TeX Live にも収録されている) luwa-ul パッケージと併用し易い仕様にする。

3 設置・依存性

3.1 読み込み

適切な場所に `gckanbun.sty` のファイルを設置し、`\usepackage{gckanbun}` とかけば読み込みは完了です。

本パッケージは LuaLaTeX でも (u)TeX でも使用が可能です。

3.2 オプション

パッケージオプションは `prefix=<prefix>` (デフォルト値: `gckanbun`) となっていて、gckanbun パッケージが提供する 3 つのコマンド `\gckanbunruby`、`\gckanbunokurigana`、`\gckanbunkaeriten` をそれぞれ `<prefix>ruby`、`<prefix>okurigana`、`<prefix>kaeriten` として提供します。このオプションにより、他のパッケージで提供されるルビ振りコマンド `\ruby` との衝突を避けられます。

以下の説明においては、`prefix` を空白として指定したものと仮定してコマンド名を表記しています。
必要に応じて補って読んでください。

4 各種コマンド

4.1 概観

漢文組版において必要十分であるコマンドは、

- 返り点
- 振り仮名
- 送り仮名
- 再読振り仮名
- 再読送り仮名
- 一レ点、上レ点、甲レ点、天レ点
- ハイフン

です。これらに対し、本パッケージでは、それぞれ

- \kaeriten、\返り
- \furigana、\振り
- \okurigana、\送り
- \furigana、\振りのオプショナル引数
- \okurigana、\送りのオプショナル引数
- \IchiRe、\JyouRe、\KouRe、\TenRe
- \KanHyphen

が対応しています。

このうち、prefix が適用されるのは\kaeriten、\furigana、\okurigana のみであることに注意が必要です。

4.2 使用方法

4.2.1 \kaeriten、\返り

これらの2種類のコマンドは全く同一のコマンドです。

Input

```
1 雖\返り{レ}\\\n2 雖\返り{\IchiRe}
```

Output

横書き

雖いへど鬼

雖いへど鬼

のような出力になります。

4.2.2 \furigana、\振り、\okurigana、\送り

\furigana、\振りは同一、\okurigana、\送りは同一です。

Input

横書き

```
1 \振り{雖}{いへど}\送り{モ}\
2 \振り{所}{ゆ}\返り[intrusion=post]{二}\振り{\KanHyphen}{ゑ}\振り{以}{ん}\
3 \振り{猶}{な}[ごと]\送り{ホ}[キヲ]
```

Output

横書き

いへどモ

ゆゑん
所三以

なホ
猶ごとキヲ

これらのコマンドにはスターオプションがありますが、これは振り仮名や送り仮名を\smashに入れるか入れないかを変更するためのオプションです。通常の使用時はオプションなしで使います。

ちなみに、「所以」のようなハイフンを含んだ熟語を打つ場合、\返り [intrusion=post]{二}のように [intrusion=post] のオプションを入れると出力は綺麗になります。

5 局所縦書き

このパッケージによって提供されるコマンドは局所的な縦書きにも対応しています（v2.2.0 以降限定ですので、それ以前のものだと出力が壊れることに注意してください。）。

局所縦書きを開始する際には、\GCKTateOn を入れます。もし、通常が縦書き環境の中で局所横書きをする場合には\GCKTateOff となります。

Input

横書き

```
1 \parbox{8zw}{\GCKTateOn%
2 \振り{雖}{いへど}\送り{モ}\
3 \振り{所}{ゆ}\返り[intrusion=post]{二}\振り{\KanHyphen}{ゑ}\振り{以}{ん}\
4 \振り{猶}{な}[ごと]\送り{ホ}[キヲ]
```

```
5 \par}
6
7 \parbox{t}{8\zw}{\GCKTateOn%
8 今夫\送り{レ}江戸\振り{者}{は}、世之所\送り{ノ}\返り{レ}称\送り{スル}名都\振り{大
9 }{だい}\振り{邑}{いふ}、%
10 冠蓋之所\返り{レ}集\送り{マル}\LineNumbering*{\kakko{2}}\dashKK{舟車之\振り{所
11 }ところ}\送り{ニシテ}\返り{レ}\振り{湊}{あつ}\送り[intrusion=post]{マル}、%
12 実\送り{ニ}\振り{為}{た}\送り{ル}\返り{二}天下之大都会\返り{一}也。%
13 而\送り{レドモ}\LineNumbering{C}\nolinebreak\underLineKKAuto{其地之為名、訪之於
14 古、未之聞}。%
15 豈\送り{二}非\送り{ズ}\返り{三}古今相\送り{ヒ}去\送り{ルコト}\振り{日}{ひび}\送り
16 {ニ}遠\送り{ク}、%
17 事之相\送り{ヒ}変\送り{ズルコト}愈多\送り{ク}、%
18 求\送り{ムルモ}\返り{二}其\送り{ノ}所\送り{ヲ}\返り{IchiRe}欲\送り{スル}\返り{レ
19 }聞\送り{カント}而不\送り{ルコト}可\送り{カラ}\返り{レ}得、%
20 亦\送り{タ}\振り{猶}{な}【ごと】\送り{ホ}[キヨ]\返り{二}今之於\送り{ケルガ}\返り{JyouRe}古\送り{ニ}也。 \par%
21 }
```

Output 横書き

今夫江戸者、世之所レ稱名都大邑、所レ稱之所集マル(2)、冠蓋之所レ湊、馬ル(2)、舟車之所レ湊、馬ル(2)、実為天下之大都也。會也。而レドモ其地之為名、訪之於古、未之聞。豈非古今相去日遠、事之相變、愈多、求其所欲、而不可得、也。亦猶今之於古也。

6 通常の漢文

通常の漢文を打つ際には、

- ・ルビはモノルビ仕様
 - ・必ず\振り→\送り→\返りの順番にコマンドを配置

の2点に注意します。

縦書き環境における出力は以下のようになります。漢詩でなければ、通常の文章と同様の打ち方で問題ありません。

漢文に傍線を引く場合、luwa-ul パッケージが最適です。自動でルビを検出し、下線を適切に持ち上げてくれます。詳しい仕様は、luwa-ul のマニュアルをご参照ください。

Input

```
1 \documentclass[luatex,fontsize=8pt,paper=b5,tate]{jlreq}
2 \usepackage{luwa-ul,KKsymbols}
3 \usepackage{gckanbun}
4
5 \begin{document}\LARGE
6
7 今夫\送り{レ}江戸\振り{者}{は}、世之所\送り{ノ}\返り{レ}称\送り{スル}名都\振り{大
8 }{だい}\振り{邑}{いふ}、冠蓋之所\返り{レ}集\送り{マル}\LineNumbering*\{kakko
9 {2}\}\dashKKAuto{舟車之\振り{所}{ところ}\送り{ニシテ}\返り{レ}\振り{奏}{あつ}\送
10 り[intrusion=post]{マル}}、実\送り{ニ}\振り{為}{た}\送り{ル}\返り{二}天下之大都
11 会\返り{一}也。
12 而\送り{レドモ}\LineNumbering{C}\nolinebreak\underLineKKAuto{其地之為名、訪之於
13 古、未之間}。
14 豈\送り{二}非\送り{ズ}\返り{三}古今相\送り{ヒ}去\送り{ルコト}\振り{日}{ひび}\送り
15 {ニ}遠\送り{ク}、事之相\送り{ヒ}変\送り{ズルコト}愈多\送り{ク}、求\送り{ムルモ}\
16 返り{二}其\送り{ノ}所\送り{ヲ}\返り{\IchiRe}欲\送り{スル}\返り{レ}聞\送り{カント}
17 而不\送り{ルコト}可\送り{カラ}\返り{レ}得、亦\送り{タ}\振り{猶}{な}[ごと]\送り{木
18 }[キヲ]\返り{二}今之於\送り{ケルガ}\返り{\JyouRe}古\送り{ニ}也。%
```

1
 今夫江戸者は、世之所称名都大邑、冠蓋之所集⁽²⁾丹車之所⁽²⁾、
 都会也。而其地之為名、訪之於古未之聞。豈非古今相去⁽²⁾日遠、事之相變⁽²⁾
 愈多、求其所欲聞而不可得、亦猶⁽²⁾今之於古也。

7 漢詩

漢詩を打つ場合には、\makebox と intrusion オプションを使います。intrusion オプションを指定すると、ルビ文字が親文字の幅を超えた時に前後の領域に「侵入」する形で配置されます。

しかし、漢文はほとんどの文字に何らかのルビが振られるため、普段から侵入を許可する仕様にするとかえって読みづらいです。したがって、本当に必要な時にだけこのオプションを使うべきです。

漢詩において、各句の最初と最後の字が水平方向に揃っていないと見栄えを損なってしまいます。そこで、gckanbun パッケージでは\makebox と intrusion オプションの組み合わせによって漢詩を組版することを推奨します。

```
\振り intrusion=pre/post/both の 3種類  
\送り intrusion=post/both の 2種類  
\返り intrusion=post/both の 2種類
```

が各コマンドで提供されるオプションであることに注意し、

Input

```
1 \documentclass[luatex,fontsize=8pt,paper=b5,tate]{jlreq}  
2 \usepackage{luwa-ul,KKsymbols}  
3 \usepackage{gckanbun}  
4 \begin{document}\Huge%  
5 \makebox[8em][t]{%  
6 \振り[intrusion=pre]{春}{しゅん}\hfill%  
7 \振り{眠}{みん}\hfill%  
8 不\返り{レ}\hfill%  
9 \振り{覚}{おぼ}\送り{工}\返り{レ}\hfill%  
10 \振り{暁}{あかつき}\送り[intrusion=post]{ヲ}%  
11 }  
12  
13 \makebox[8em][t]{%  
14 \振り{処}{しょ}\hfill%  
15 \振り{処}{しょ}\hfill%  
16 聞\送り{ク}\返り{ニ}\hfill%  
17 \underLineKKAuto{\振り{啼}{てい}}\hfill%  
18 鳴\送り{ヲ}\返り[intrusion=post]{一}}%  
19 }  
20  
21 \makebox[8em][t]{%  
22 \振り{夜}{や}\hfill%  
23 \振り{来}{らい}\hfill%  
24 風\hfill%  
25 雨\送り{ノ}\hfill%  
26 声%  
27 }  
28  
29 \makebox[8em][t]{%  
30 花\hfill%  
31 \振り{落}{お}\送り{ツルコト}\hfill%  
32 知\送り{ル}\hfill%
```

```
33 \振り{多}{た}\hfill%
34 \振り[intrusion=post]{少}{しょ}%
35 }
36
37 \end{document}
```

Output

縦書き

1
花 夜 や 処 ショ 春 シュン
落 オゾル 来 らい 処 ショ 眼 シム
知 ゴト 風 ニ 聞 クレ 不 レ
多 タタ 雨 ノ 嘶 イ 覚 オボエ
少 ショ 声 ノ 鳥 ヲ 曙 アカツキ

以上のように「漢字 1 文字ごとに\hfill を挿入」することによって適切な空きを確保し、その上で句の最初の文字に（必要ならば）`intrusion=pre`、最後の文字に`intrusion=post`とします。ただし、たとえば「鳥\送り{ヲ}\返り{一}」のような 1 まとまりにおいて、\送りと\返りの両方に対して`intrusion=post`をつける必要はありません。「一番最後の」要素に対してのみ`intrusion=post`をつければ十分です。

8 ライセンス

本パッケージを MIT ライセンスで配布します。条件なども全て以下のライセンス表記に準拠します。

――【ライセンス全文】〈gckanbun package〉――

This package is licensed under the terms of the MIT License.

Copyright (c) 2017-2025 Munehiro Yamamoto <munepixyz@gmail.com>

Copyright (c) 2025 Kosei Kawaguchi

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

9 Version History

- v2.0.0 (2025/11/04) — Initial public release as a reworked version.
- v2.1.0 (2025/11/12) — Modified package documentation. Also, KKTeX added some options for KANSHI typesetting.
- v2.2.0 (2025/12/26) — Fixed a problem in which a previous \送り has an effect on the next \返り [intrusion=post]{arg}. Also, make every commands can be used in partly-vertical-mode with the new \GCKTateOn.

10 Source Code

```
\NeedsTeXFormat{LaTeX2e}
\ProvidesPackage{gckanbun}[2025/12/26, Version 2.2.0]
```

```

%% declare package errors
\def\gcknb@error{\PackageError{gckanbun}}
\def\gcknb@warning{\PackageWarning{gckanbun}}
\def\gcknb@warningnoline{\PackageWarningNoLine{gckanbun}}
\def\gcknb@info{\PackageInfo{gckanbun}}


\RequirePackage{keyval,etoolbox}
\DeclareOption*{\gcknb@setkey}
\def\gcknb@setkey{\expandafter\@gcknb@setkey\expandafter{\CurrentOption}}
\def\@gcknb@setkey{\setkeys{gcknb@}}
\def\gcknb@prefix{gckanbun}%%given <prefix> for each commands
\define@key{gcknb@}{prefix}{\gdef\gcknb@prefix{\#1}}


\ExecuteOptions{prefix}
\ProcessOptions\relax


%% auto-detect engine
\RequirePackage{ifuptex}
\RequirePackage{ifluatex}
\ifluatex
  \@ifpackageloaded{luatexja}{}{%
    \gcknb@error{Please load package 'luatexja' when loading this package.}}
\else\ifuptex
  \def\zw{zw}\def\zh{zh}
\else\ifptex
  \def\zw{zw}\def\zh{zh}
\else
  \gcknb@error{Package 'gckanbun' currently supports (u)pLaTeX and LuaLaTeX.}
\fi\fi\fi


%% 縦書き判定
\newif\ifgcknb@tdir
\gcknb@tdirfalse
\@ifundefined{iftdir}{\let\iftdir\iffalse}{}%
\ifluatex
  \@ifundefined{ltjgetparameter}{}{%
    \ifnum\ltjgetparameter{direction}=3 %
      \gcknb@tdirtrue
    \fi
  }%
\else
  \iftdir
    \gcknb@tdirtrue
  \fi\fi


\newcommand{\GCKTateOn}{\gcknb@tdirtrue}
\newcommand{\GCKTateOff}{\gcknb@tdirfalse}

\newcommand*\gcknb@kanjiskip@fill{%
\ifluatex

```

```

\ltjsetparameter{kanjiskip=\fill}%
\else
\kanjiskip=\fill\relax
\fi
}

\newlength{\gcknbn@adjust@yokotate}

\NewDocumentCommand{\gcknbn@adjust@yokotate@use}{}
{
\ifgcknbn@tdir
\setlength{\gcknbn@adjust@yokotate}{-.7525\zw}%
\else%
\setlength{\gcknbn@adjust@yokotate}{-.56\zw}%
\fi%
}

\newlength{\gcknbn@adjust@kaeri}

\NewDocumentCommand{\gcknbn@adjust@kaeri@use}{}
{
\ifgcknbn@tdir
\setlength{\gcknbn@adjust@kaeri}{.35\zw}%
\else%
\setlength{\gcknbn@adjust@kaeri}{.15\zw}%
\fi%
}

% phantom
\def\gckanbun@phantom{\vphantom{\symbol{"7F57}}}

%% ルビ
%% * グループルビ
%% * 漢文訓点に対するふりがな（モノルビ）
\let\gcknbn@rubybox@text\relax
\let\gcknbn@rubybox@text@s\relax
\newdimen\gcknbn@rubybox@width
\newdimen\gcknbn@furanigana@width \gcknbn@furanigana@width\z0
\newdimen\gcknbn@furanigana@width@s \gcknbn@furanigana@width@s\z0
\newdimen\gcknbn@dim@width

% pre,post,bothをとれる。
\newdimen\gcknbn@intr@pre
\newdimen\gcknbn@intr@post
\define@key{gcknbn@ruby}{intrusion}{\edef\gcknbn@ruby@intr@mark{\#1}}


\DeclareDocumentCommand{\gcknbn@ruby}{ O{} m m O{\gckanbun@phantom}}{%
\gcknbn@adjust@yokotate@use%
\global\gcknbn@furanigana@width\z0%
\global\gcknbn@furanigana@width@s\z0%
\global\def\gcknbn@ruby@intr@mark{}%
\leavevmode%
}

```

```

\begin{group}%
  \setkeys{gcknbn@ruby}{#1}%
  \gcknbn@dima\f@size\p@ \relax \divide\gcknbn@dima by \tw@%
  \def\tiny{\@setfontsize\tiny{\gcknbn@dima}{\z@}}%
  \setbox\z@=\hbox{#2}%
  \setbox\one=\hbox{\tiny#3}%
  \setbox\tw@=\hbox{\tiny#4}%
  \ifdim\wd\one>\wd\tw@%侵入量計算
    \ifdim\wd\one>\zw%
      \global\gcknbn@intr@pre=\dimexpr(\wd\one-\zw)/2\relax%再読なし前方
      \global\gcknbn@intr@post=\dimexpr(\wd\one-\zw)/2\relax%再読なし後方
    \else%
      \global\gcknbn@intr@pre=0em\relax%
      \global\gcknbn@intr@post=0em\relax%
    \fi%
  \else%
    \ifdim\wd\tw@>\zw%
      \global\gcknbn@intr@pre=\dimexpr(\wd\tw@-\zw)/2\relax%再読あり前方
      \global\gcknbn@intr@post=\dimexpr(\wd\tw@-\zw)/2\relax%再読あり後方
    \else%
      \global\gcknbn@intr@pre=0em\relax%
      \global\gcknbn@intr@post=0em\relax%
    \fi%
  \fi%
  \ifdefstring{\gcknbn@ruby@intr@mark}{pre}{%
    \kern-\gcknbn@intr@pre%
  }{%
    \ifdefstring{\gcknbn@ruby@intr@mark}{both}{%
      \kern-\gcknbn@intr@pre%
    }{%
      % それ以外は何もなし
    }%
  }%
  \gdef\gcknbn@rubybox@text{#3}%
  \gdef\gcknbn@rubybox@text@s{#4}%
  \global\gcknbn@rubybox@width=\wd\z@\relax%
  \gcknbn@furigana@okurigana%
}

\def\gcknbn@furigana@okurigana{%
  \futurelet\@let@token\gcknbn@furigana@okurigana%
}

\def\gcknbn@@furigana@okurigana{%
  \ifx\@let@token\gcknbn@okurigana% 次が送り仮名の時
    \global\gcknbn@furigana@width=\wd\one\relax%
    \global\gcknbn@furigana@width@s=\wd\tw@\relax%
    \dimen\z@=\wd\z@%
    \raisebox{\gcknbn@adjust@yokotate}{\hbox{%
      \vbox{\hbox to \dimen\z@{\box\one\hss}%
        \nointerlineskip\hbox to \dimen\z@{\hss\box\z@\hss}%
    }}%
  \else%
    \gcknbn@okurigana%
  \fi%
}

```

```

    \nointerlineskip\hbox to \dimen{z@{\box\tw@\hss}%
}}}%
\else% 次が送り仮名ではない時
\ifdim\wd{z@}>\wd@ne% \dimen{z@=\max{\wd{z@},\wd@ne,\wd\tw@}
\dimen{z@=\wd{z@}%
\else%
\dimen{z@=\wd@ne%
\fi%
\ifdim\dimen{z@}<\wd\tw@%
\dimen{z@=\wd\tw@%
\fi%
\penalty\@lowpenalty%
\raisebox{\gcknbn@adjust@yokotate}{\hbox{%
\vbox{\hbox to \dimen{z@{\tiny\hss\gcknbn@rubybox@text\hss}%
\nointerlineskip\hbox to \dimen{z@{\hss\box{z@}\hss}%
\nointerlineskip\hbox to \dimen{z@{\hss\box\tw@\hss}%
}}}}%
\fi%
\ifdefstring{\gcknbn@ruby@intr@mark}{post}{%
\kern-\gcknbn@intr@post%
}%
\ifdefstring{\gcknbn@ruby@intr@mark}{both}{%
\kern-\gcknbn@intr@post%
}%
% それ以外は何もなし
}%
\endgroup

```

```

%% 訓点
\newdimen\gcknbn@okurigana@width \gcknbn@okurigana@width{z@}
\newdimen\gcknbn@okurigana@width@s \gcknbn@okurigana@width@s{z@}
\newdimen\gcknbn@kaeriten@width \gcknbn@kaeriten@width{z@}

% post,bothをとれるが挙動は一緒
\define@key{\gcknbn@okurigana}{intrusion}{\edef\gcknbn@okuri@intr@mark{#1}%

%% 訓点送り仮名
\DeclareDocumentCommand{\gcknbn@okurigana}{O{} m O{\gcknbn@phantom}}{%
\nobreak\leavevmode%
\gcknbn@adjust@yokotate@use%
\global\gcknbn@okurigana@width{z@}
\global\gcknbn@okurigana@width@s{z@}
\global\def\gcknbn@okuri@intr@mark{}%
\begin{group}%
\setkeys{\gcknbn@okurigana}{#1}%
\gcknbn@dima\f@size\p@relax\divide\gcknbn@dima by \tw@%
\def\tiny{\@setfontsize\tiny{\gcknbn@dima}{z@}}%
\setbox{z@=\hbox{\tiny #2}}% 通常送り仮名
\setbox{z@=\hbox{\tiny #3}}% 再読送り仮名 (通常はvphantomを入れている)

```

```

\ifdim\gcknbn@furigana@width>0.9999\zw\relax%
  \global\gcknbn@okurigana@width=\dimexpr\gcknbn@furigana@width + \wd\z@ - 1\zw\relax%
\else%
  \global\gcknbn@okurigana@width=\dimexpr\wd\z@ - .5\zw\relax%
\fi%
\ifdim\gcknbn@furigana@width@s>0.9999\zw\relax%
  \global\gcknbn@okurigana@width@s=\dimexpr\gcknbn@furigana@width@s + \wd@ne - 1\zw\relax%
\else%
  \global\gcknbn@okurigana@width@s=\dimexpr\wd@ne - .5\zw\relax%
\fi%
\hbox{%
  \raisebox{\gcknbn@adjust@yokotate}{\vbox{\hbox to \gcknbn@okurigana@width{%
    \ifdim\gcknbn@furigana@width>0.9999\zw\relax%
      \hskip*\{\dimexpr\gcknbn@furigana@width - 1\zw\relax\}%
    \else%
      \hskip*{-.5\zw}%
    \fi%
    \box\z@%
    \nointerlineskip%
    \hbox to \gcknbn@okurigana@width{%
      \hss%
      \vphantom{\char'euc"A1A1}%
      \hss%
    }%
    \nointerlineskip%
    \hbox to \gcknbn@okurigana@width@s{%
      \ifdim\gcknbn@furigana@width@s>0.9999\zw\relax%
        \hskip*{\dimexpr\gcknbn@furigana@width@s - 1\zw\relax\}%
      \else%
        \hskip*{-.5\zw}%
      \fi%
      \box@ne%
    }%
  }%
}%
\global\gcknbn@furigana@width=\z@\relax%
\gcknbn@okurigana@intr%
\gcknbn@okurigana@kaeriten%
}

\def\gcknbn@okurigana@kaeriten{%
  \futurelet@\let@token\gcknbn@okurigana@kaeriten}
\def\gcknbn@@okurigana@kaeriten{%
  \ifx@\let@token,
    \gcknbn@okurigana@kutoten@skip
    \global\gcknbn@okurigana@width=\z@
  \else\ifx@\let@token.
    \gcknbn@okurigana@kutoten@skip
    \global\gcknbn@okurigana@width=\z@
  \else\ifx@\let@token\gcknbn@kaeriten

```

```

\gcknbn@okurigana@kaeriten@skip
\else%
  \ifdefstring{\gcknbn@okuri@intr@mark}{post}{%
    \kern-\gcknbn@intr@post%
  }{%
    \ifdefstring{\gcknbn@okuri@intr@mark}{both}{%
      \kern-\gcknbn@intr@post%
    }{%
      % それ以外は何もなし
    }{%
  }%
\fi\fi\fi
\endgroup}
\def\gcknbn@okurigana@kutoten@skip{%
  \ifgcknbn@tdir\hspace*{-\gcknbn@okurigana@width}\else\fi%
}
\def\gcknbn@okurigana@kaeriten@skip{%
  \ifdim\gcknbn@okurigana@width>\gcknbn@okurigana@width@s%
    \hspace*{-\gcknbn@okurigana@width}%
  \else%
    \hspace*{-\gcknbn@okurigana@width@s}%
  \fi
}
\def\gcknbn@okurigana@intr{%
  \ifdim\gcknbn@okurigana@width>\gcknbn@okurigana@width@s%
    \global\gcknbn@intr@post=\gcknbn@okurigana@width%
  \else%
    \global\gcknbn@intr@post=\gcknbn@okurigana@width@s%
  \fi
}
%%訓点返り点
\newcommand*\gcknbn@kaeriten{\gcknbn@@kaeriten}

% post,bothをとれるが挙動は一緒
\define@key{gcknbn@kaeriten}{intrusion}{\edef\gcknbn@kaeri@intr@mark{#1}%
\NewDocumentCommand\gcknbn@@kaeriten{ O{} m }{%
\nobreak\leavevmode
\gcknbn@adjust@kaeri@use%
\global\def\gcknbn@kaeri@intr@mark{#1}%
\setkeys{gcknbn@kaeriten}{#1}%
\begin{group}
\gcknbn@dima\f@size\p@\relax \divide\gcknbn@dima by \tw@
\def\tiny{\@setfontsize\tiny{\gcknbn@dima}{\z@}}%
\setbox\z@=\hbox{\tiny #2}%
\global\gcknbn@kaeriten@width=\wd\z@\relax
\ifdim\wd\z@>\gcknbn@intr@post%
  \global\gcknbn@intr@post=\wd\z@%
\fi%
\smash{\lower\gcknbn@adjust@kaeri\hbox{\box\z@\hss}}%

```

```

\endgroup%
\gcknbn@kaeriten@kutoten%
}

\def\gcknbn@kaeriten@kutoten{\futurelet\@let@token\gcknbn@@kaeriten@kutoten}
\def\gcknbn@@kaeriten@kutoten{%
\ifx\@let@token%
\gcknbn@kaeriten@kutoten@skip%
\global\gcknbn@kaeriten@width=\z@%
\else\ifx\@let@token%
\gcknbn@kaeriten@kutoten@skip%
\global\gcknbn@kaeriten@width=\z@%
\else%
\ifdefstring{\gcknbn@kaeri@intr@mark}{post}{%
\kern-\gcknbn@intr@post%
}{%
\ifdefstring{\gcknbn@kaeri@intr@mark}{both}{%
\kern-\gcknbn@intr@post%
}{%
\gcknbn@kaeriten@okurigana@skip%
}}%
\fi\fi%
\fi\fi%
\def\gcknbn@kaeriten@skip{%
\ifgcknbn@tdir%
\hspace*{-\gcknbn@kaeriten@width}%
\fi%
}
\def\gcknbn@okurigana@kutoten@skip{%
\hspace*{-\gcknbn@okurigana@width}%
}
\def\gcknbn@kaeriten@okurigana@skip{%
\ifdim\gcknbn@okurigana@width>\gcknbn@kaeriten@width%
\hspace*{\dimexpr\gcknbn@okurigana@width - \gcknbn@kaeriten@width}%
\fi%
\ifdim\gcknbn@okurigana@width<\gcknbn@okurigana@width@s%
\hspace*{\gcknbn@okurigana@width@s - \gcknbn@kaeriten@width}%
\else%
\fi%
}
\% Finally, provide \<prefix>ruby, \<prefix>okurigana, \<prefix>kaeriten
\expandafter\let\csname\gcknbn@prefix ruby\endcsname\gcknbn@ruby
\expandafter\let\csname\gcknbn@prefix okurigana\endcsname\gcknbn@okurigana
\expandafter\let\csname\gcknbn@prefix kaeriten\endcsname\gcknbn@kaeriten

%% 短縮マクロ
\expandafter\let\csname 振り\endcsname\gcknbn@ruby
\expandafter\let\csname 送り\endcsname\gcknbn@okurigana
\expandafter\let\csname 返り\endcsname\gcknbn@kaeriten

```

```

%% 特殊返り点
\NewDocumentCommand{\IchiRe}{}{%
  \ifgcknbn@tdir
    \hspace{-.5ex}—\hspace{-.9ex}レ%
  \else%
    \raisebox{.5ex}{—}\llap{レ}%
  \fi%
}
\NewDocumentCommand{\JyouRe}{}{%
  \ifgcknbn@tdir
    上\hspace{-.7ex}レ%
  \else%
    \raisebox{1.7ex}{上}\llap{レ}%
  \fi%
}
\NewDocumentCommand{\KouRe}{}{%
  \ifgcknbn@tdir
    甲\hspace{-.4ex}レ%
  \else%
    \raisebox{1.9ex}{甲}\llap{レ}%
  \fi%
}
\NewDocumentCommand{\TenRe}{}{%
  \ifgcknbn@tdir
    天\hspace{-.4ex}レ%
  \else%
    \raisebox{1.9ex}{天}\llap{レ}%
  \fi%
}
\NewDocumentCommand{\KanHyphen}{}{\symbol{"2015}}
\endinput

```